

科学技術政策との関連での提言（素案）

永野 博

科学技術政策は通常、中長期的な観点から施策を論じることが多いので、復興という観点から取り組めることを考えるのは必ずしも容易ではないが、そのような中であっても何をすべきかを次の範疇に分けて考えてみる。

1. 長い復興期間が見込まれるので、復興期間の間に考えられる科学技術の成果を取り込むことを考えた上での復興計画の策定、及びそれに寄与しうる科学技術予算の決定方法の改善

2. 初等中等教育、特に ESD（持続可能な発展のための教育）において、今回の被災を踏まえた将来への発展を指し示す事項を入れ込むこと

3. 将来の被災地域の発展に寄与する夢を抱かせる国家的プロジェクトの設定

4. 政府部内の意思決定機構における科学技術上の知見の活用方法の改革

各区分において考えられることについて簡単に述べたい。

1. 復興期間が長期にわたることを考えると、復興のための都市計画、土地利用計画を作成する上で、今後に具体化することが予測される技術開発の成果を取り入れることができ、結果的に日本の将来を先導するような事例の実現とみなされるような発展的な復興計画を用意しておくことが求められる。エネルギー、水などの資源についても出来るだけ消費する場所で生産できるようなシステムを取り込むことが求められてくるが、そうはいつでも望ましい技術は現在あるものばかりではない。例えば、将来もっと効率的になった太陽エネルギーの利用を大々的にすべきことを考えるなら、建物の配置にあたっては屋根の向きから考えるべきであるし、道路の側面の利用など、直ぐに現在の太陽パネルを置くとは考えられないところでも、将来の利用を考えた上での設計を行う。

ロボット技術がもっと使えたのではないかとの議論があるが、現実にはレスキューロボットの予算を取ろうとしても理解をする向きがほとんどなく、そんなものが本当に役立つのかという雰囲気はずっと続いていた。何に科学技術予算を投じるかの判断をする際に、例えば基礎研究的な部分と社会への活用的な部分を一定の割合で切れわけ、後者については社会における多くの関係者が議論したうえで決めるというシステムを取り込み、長い復興期間の中で場合によってはその成果を取り込むことのできるような技術開発テーマを探索していくことも必要ではないだろうか。

2. 現在、国連の決議に基づきユネスコの主導により世界的に「持続的発展のための教育(ESD)の10年」が進められており、わが国も各地の初等中等教育において、特に各地で認定されたユネスコスクールを中心のその教育が進められているが、このESDのカリキュラムに自然災害とその克服のあり方を組み込んでいけば、将来のライフスタイルの転換の素地ともうる効果があると思われる。

3. 今回は多くの大学の理工系学部の施設も被害にあっており、その復旧も焦眉の急であるが、すべての施設を今までと同じように復旧するのではなく、国家的観点から東北地

方のどこか一箇所に絞り、世界中を魅惑するような自然災害、復旧、自然との付き合い方を含めたライフスタイルのあり方など、自然科学と社会科学を包含するセンターを設け、世界の人々がグローバルチャレンジへの対応を考えていく上でのアイデア、その具体化を図る上でのキーとなる場所を構築すれば、科学技術上の観点ばかりでなく、長期的な観点から被災地域全体の将来へ向けた意識を高揚させることができると考えられる。このようなセンターの設計に当たっては、日本人以外の知恵も導入することが求められる。

4. 今回の動きをみていると専門分野の知識を有している者と首相をはじめとする政策のトップの間に日頃の直接のルートがないため、首相が偶々、知り合った、または推薦された方に突然アドバイザーを依頼しているように見える。内閣府にも有識者から構成される各種の審議会があるが、審議会委員には首相への直接のアドバイザーの役割があるようには見えない。他国の例を見ると、首相と直結する科学顧問がいて学界の最高レベルが突然の出来事にも対応しうようになっている国もある。どのような方法を取るかは、社会、文化的背景の違いもあり千差万別と思われるが、知識を国家全体として上手く活用しうるシステムの設計は不可避である。このことは原子力政策においても同じであり、安全、規制部門は電力推進部門と切り離すべきことは明らかであるが、日本の知見がすべて機動的に活用され、首相をはじめ関係者に直ぐに伝達できるようなシステムになっていなかったことを反省することは当然として、必ず出来るだけ早期に今回の事例を克服しうるシステムを構築すべきであるが、その際、知識、知恵、創造的な考えをすることの大事さを同時に浸透させていくことが出来ないと、形は整えても結果的には同じことが起こるということを肝に銘じてシステム設計に当たるべきである。